

【研究報告（平成 29 年度）】

チーム① 妊娠・出産及び子育て期の子どもといる生活の研究チーム 「こどもといる生活」を共に支えあう子育て力・地域力の創出

廣瀬伸一^{*1)}、宮城由美子²⁾、塚原ひとみ²⁾、井上貴仁¹⁾、佐久間良子²⁾、小柳康子²⁾、池田佐知子²⁾、村田愛²⁾、村田将春³⁾、太田栄治³⁾、藤田貴子¹⁾、有馬久富⁴⁾、宮本新吾⁵⁾

1) 小児科学、2) 看護学科、3) 総合周産期母子医療センター、4) 衛生・公衆衛生学、5) 産婦人科学、*) チーム責任者、1) 4) 5) ; 福岡大学医学部医学科、2) 福岡大学医学部、3) 福岡大学病院

要 旨

福岡市の特徴の一つに晩婚化、共働き世帯・夫婦のみ世帯を中心に核家族世帯の増加がある。妊産婦と子育て期の母親の孤立を防止するために、地域・家庭の子育て力を強化し、妊娠から子育て期までの切れ目のない支援をすることで共に支えあう地域を創出することが課題である。今年度は、福岡大学病院受診者に限らず、福岡市城南区へも広報活動を行い昨年度に引き続き①妊娠期の母親を支える夫・祖父母を対象に支援講座を開催し子育て力の強化を図った。さらに受講者のニーズから実際の赤ちゃんとのふれあいの希望から②プレママ・パパスクールの開催、子育て期への支援として③保護者および保育士への育児支援を行った。

1. 緒 言

福岡市は、晩婚化、共働き世帯・夫婦のみ世帯を中心に核家族世帯が増加し安心して産み育てられる地域の環境づくりに関する課題がある。そのため妊娠前、妊娠、出産及び子育て等、個々の状況に応じ対象者に切れ目なく適切な支援を行うために、支援人材の育成及び資質向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度事業計画

妊娠期の子育て支援活動を継続・拡大し、ハイリスク妊婦への支援拡充としており、平成 30 年度目標である子育て期における子育て支援活動導入も前倒し計画を進めた。

3. 平成 29 年度の進捗状況

1) ハイリスク妊産婦・新生児の健康支援

支援講座（母親・両親・祖父母学級）の開催。

昨年に引き続き福岡大学病院総合周産期母子医療センター産科部門と協働で毎月第 4 土曜日の午後、両親・祖父母を含めた母親学級を看護学科の母子看護学実習室で実施した。対象は、福岡大学病院に受診中のハイリスク妊産婦と家族、

福岡市城南区保健センターの協力により地域の妊産婦であった。内容は昨年と同様に看護学科の施設や学習教材を活用し、「今どきの子育て」「食べてみよう離乳食」「家庭に潜む危険」「お風呂に入れよう体験」を 2 時間コースで企画し実施した。1 月までに祖父母学級は 9 回開催し 84 名の参加であり、うち地域住民の参加は 8 名であった（図 1）。満足度は全員が満足していた。

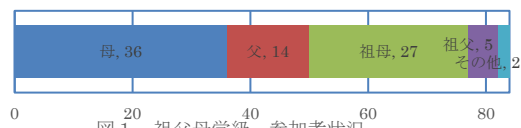


図 1. 祖父母学級 参加者状況
(2017.4～2018.1の参加者84の内訳)

2) プレママ・パパスクール

お産後の子育てイメージを具体化し、子育て不安の減少とママ・パパ役割を予測可能にする支援を強化するために本講座を企画した。

①赤ちゃん先生とママグループセッション

妊娠した時の思い、妊娠中の経過、分娩の流れ、1 日の過ごし方、子育ての実際や工夫、困ったときの対処法や気持ちの持ち方、夫や家族支援の方法など実体験の話や手遊びの見学を通して自

分自身の子育ての実際をイメージできていた。

②「小児科かかりつけ医」を見つけよう

福岡大学医学部小児科学教室井上貴仁准教授による講話はワクチン接種、かかりつけ医の選び方、水痘についての誤解について企画した。参加者は、2組共に里帰り出産の予定者であり、自宅に戻ってからの子育ての探し方や、生後2か月から始まるワクチン接種に向けて、小児科予約の方法を含めた小児科の探し方、出産前より小児科受診の方法を調べておくことなどのイメージできていた。参加者は2組3名（37週の初産婦、22週の初産婦と夫）であったが、満足度は全員満足していた。

地域に向けた妊娠期における支援の広報活動での集客が見込まれず、2月より出産用品、子ども用品専門店西松屋に広報協力を行った。この広報に関しては次年度以降も継続・拡充していく。

3) 子育て期における支援

「保育士さんの勉強会」「パパもママも勉強中」

平成30年度の子育て期の支援を前倒しし展開した。保育の現場で困っている健康障害や医療保健に関する内容や家庭におけるホームケアについて計画し実施した。保育士に対しては「予防接種」と「子どもの発熱」について実施し、52名の参加であった。保護者に対しては「子どもの発熱時のケア」について実施し、47名の参加であった。保育者、保護者ともに高い満足度が得られ、今後のニーズについても把握し次年度以降計画していきたい。

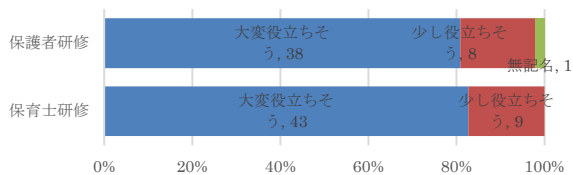


図2. 子育て期支援参加満足度
(保護者対象研修47名、保育士対象研修52名)

5) 福岡市「こども未来局」との連携

①こども発達支援課との調整

「ふくおか子ども情報メールマガジン」配信については、再度福岡市配信容量に合わせ現在

調整中である。2月中旬より案内ポスターに関して「福岡市」の後援のもと発信していくことを確認した。

②子育て支援部指導監査課との調整

保育士を対象にした研修会の協力について提案した。平成30年4月から保育所保育指針が改定になり、こどもの健康支援が重視され、同時に保育士の質の向上のための研修会なども強化されていく。そのため本ブランディング事業との協働を提案した。結果「平成30年度福岡市健康安全研修会」の開催と本学における医療用シミュレーターを用いた研修を計画していくこととなった。また各保育所や子育てサークルに対して「育児講座」の案内も発信していく。

③福岡市城南保健センターとの調整

城南区保健センターで広報協力を実施していった。平成30年度は本学で開催したプレママ・パパスクールと城南区主催のパパスクールを共同開催することで調整を行った

4. 次年度計画

次年度は、妊娠期における支援を安定的に継続していく。さらに城南保健センターとのプレママ・プレパパに対する共同企画を実践していく。また子育て期における子育て支援活動を展開していくため、子育て期の家族、保育士に対して健康支援対応力の向上を図るため、子どもにみられる病気やけがの対応について、福岡市子育て支援部と合同研修を開催していく。これに伴い福岡大学の小児科医師、看護学科教員による実践をともなう研修を実施し、さらに、いずれ親となるプレママ・パパ教育として福岡大学の学生を対象に専門的な研修プログラムを作成し支援人材の育成及び資質向上を図るための基盤整理を行っていく準備を進める。

また、福岡市との連携も強化し、子育て家庭や保育所における子育て支援内容の標準化を図っていく。妊娠から子育て期までの切れ目のない支援をすることで共に支えあう地域を創出していく。

子育て期における支援

「保育士さんの勉強会」「パパもママも勉強中」実施風景



保護者対象研修「子どもの発熱時のケア」風景



保育士対象研修「予防接種と子どもの発熱」風景



研究フロンティア事業「こどもといる生活支援」現在と未来

課題：地域・家庭の子育て力を強化し、妊産婦・育児期の母親の孤立化を防ぎ、就学前の「こどもといる生活」を支える



祖父母(両親)学童くすてきなおじいちゃん・おばあちゃん

<プレママ・ババースクール> <小児科かかりつけ医を見つけよう> <保育士さんの勉強会>

